

地域保健医療推進部

医歯学総合病院 地域保健医療推進部 副部長 鈴木 一郎

1. はじめに

地域保健医療推進部は病院の中央診療施設のひとつで、診療機能はもたず、医療安全管理部や感染管理部などと同様に病院機能をバックアップする部署です。

病院統合前の2003年4月に地域連携や退院支援を担当する部署として医学部附属病院に設置され、旧医学部附属病院入退院口近くの小部屋で看護師1名のスタッフでスタート、その後病院再開発にあわせて院内を転々としてきましたが、2012年6月からは外来棟エントランス階にて現在30名近くの多職種チームで業務にあたっています。

2. 地域連携と退院支援

医療機関はその機能、規模や立地によりそれぞれ異なる役割を持ち、地域の医療提供体制はそれらが適切に連携することで完結する必要があります。大学病院は医療法上、特定機能病院と位置付けられ、三次医療圏など広域に対して救急や高度医療を提供する役割があり、地域連携を担う部署にはそのような医療を必要とする患者さんをスムーズに受け入れるための前方連携機能、そして治療後にリハビリや在宅療養が必要な患者さんに対して転院や在宅移行のための支援を行い、次の医療機関や地域の在宅介護資源と連携する退院支援・後方連携機能が求められます。

このうち前方連携については、2011年から



地域保健医療推進部スタッフ

FAX紹介予約システムを運用しており、歯科では口腔外科のみの導入となっていますが、現在全紹介患者の約半数が本システムによる受診となっています。

一方退院支援・後方連携については、現在11名の医療ソーシャルワーカーが主体となり、年間約2,000名の入院患者（全入院患者の13%）に対して院内外が多職種と協働し支援介入を行っています。退院支援は医療側には在院日数を短縮し限られた病床や手術室等病院の持つ資源を効率的に運用する、また患者側には早く生活に戻るための支援という意味を持ちます。特に高齢者は障害をかかえたまま退院することも多く、また長期入院は原疾患と関係なく介護依存度を上げる原因にもなります。更に、独居や経済困窮など社会的弱者が適切な医療を受け生活に戻るためには、様々な社会的支援も必要です。これらの業務を行う部署は、一般に、医療連携部とか地域連携室といった名称がつけられていますが、地域保健医療推進部という名称には、医療のみならず広く福祉や保健といった視点から患者さんや地域を支援するという意図が込められています。

3. 医療福祉相談

院内で発生する様々な相談の中で、受療の相談、医療・生活費や休学・休職に関する相談、あるいは介護保険や各種制度等の社会資源の利用など、医療そのものでなく医療を適切に受けるための相談について地域保健医療推進部が担当します。これらの相談は退院支援とも密接する業務で、年間約7,000件の相談に対応しています。また、本院は地域がん診療連携拠点病院および肝疾患診療連携拠点病院に指定されており、がんや肝疾患については院外からの相談にも応じています。

4. 医歯連携

地域保健医療推進部は院内外医科歯科連携のコーディネートも担っています。具体的には口腔ケア診療班を組織し、救急搬送患者に対する口腔ケア介入や医科入院中患者の歯科受診のシステム構築などを行ってきました。また、歯科では2012年の外来棟移転を機に医療連携口腔管理チームにより、周術期口腔機能管理など医科入院患者に対する介入を行っていますが、今後は次項に示す患



患者総合サポートセンター（外来エントランス階）

者総合サポートセンターにおいて、医科手術患者に対する周術期支援の一環として入院前の口腔スクリーニングから治療や管理につなげるシステムの運用を開始しました。

5. 退院支援から入退院支援、そして患者総合支援へ

病院資源の効率的利用と患者を早期に生活に戻すための退院支援を更に進めるため、入院前から退院支援を開始し、入院から退院にいたるフロー全体をマネジメントする入退院支援へと体制強化することとしました。2013年に地域保健医療推進部に隣接して入退院センターを開設、入退院手続きを一元化し、入院予定患者の情報を入院前から把握しリスクチェックや退院支援を含む必要な介入を早期から着手する体制としました。更に今年度は、地域連携・退院支援、入退院センター機能に加えて相談や病床管理などをシームレスに行う部署として患者総合サポートセンターへの統合・改組を進めています。

6. おわりに

地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築が進むなか、私たちは院内で適切な病床利用と患者を速やかに生活に戻すための入退院マネジメントをすすめる一方で大学病院として地域医療マネジメントにも関わってゆく必要があります。院内では、患者総合サポートセンターの機能拡充を進めてゆきますが、とりわけ高齢者の認知・身体機能のチェックは優先度が高く、口腔機能スクリーニングや歯科の介入につなげることも重要です。また対外的には、地域における連携体制を強化する目的で、昨年度から新潟市医師会とともに新潟地域病院連携会議を立ち上げていますが、今年度は在宅医療や介護フィールドとのネットワーク構築を進めてゆきたいと考えています。

地域保健医療推進部には「つなぐ」と「ささえる」をイメージしたロゴがあり、スタッフの白衣やバッグのアイコンとしています。地域における新潟大学病院の役割をふまえて、そして医科と歯科の統合病院の利点を活かし、患者の医療をつなぎ生活をささえる部署として、皆さんと思いをひとつにしてこれからも前進してゆきます。



地域保健医療推進部

シンボルロゴ：医療をつなぐ、生活をささえる